

令和7年度 八王子市立浅川小学校 学校経営報告

校長 藺田 賢志

I 今年度の取り組みと学校評価

今年度、教科担任制を導入し、2年間の小学校高学年での学びを積み重ねた学年が卒業することになった。システムとしてもしっかり定着することで、校内の急な変更や大きな行事を受けての時間割変更も適切に対応でき、教員も習熟することで授業の内容が高まってきている。

その結果を裏付けするように、教科担任制に関する保護者による学校評価の値は昨年度と変わらずほぼ同じ9割を超える肯定的な結果に加え、児童の肯定的な評価は4%ほど高まっていた。

一般的な学校評価の考察としては、全体的に数値は横ばい、もしくは上がってきている中で、ICTの活用に関してのみ「今年度内」で比較すると10%減少している。ただし「昨年度」と比べると、肯定的な数はほぼ同数で、さらに内実をみると「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は、「そう思う」という「より肯定的」な数が5%ほど高まっており、肯定的な捉えは高まっている。

本校においては、ICTは何でも使うというフェーズは超えて、より効果的な場面での活用を目指している。保護者の方々に、そのような必要な場面でICTを授業で活用している面を評価いただけるように、普段からの授業にさらに磨きをかけて、より効果的に活用できるようにしたい。

地域と共にある浅川小学校として、さらに地域、保護者、児童、教職員がコミュニケーションを深め、よりよい学校となるよう取り組んでいきたい。

II 令和7年度における個別の取り組みの評価

1 確かな学力の育成（教科担任制・GIGAスクール構想に対応した教育活動の構築）

具体的方策	評価
① 教科担任制における、各種管理組織と実施上の課題や分析検討会議	① △時間割・授業時数・教室配当管理等の組織的な対応はできたが、アプリの活用まで検証できなかった。 ○高学年の教科専科による学習指導力は向上している。
② GIGA部の校内組織への常設、全学年の系統性を包含したICT教育活動の計画	② ○GIGA部による業務分担は形ができてきた。 △ICTの活用は授業の質を高める活用が必要。 ○キーボー島によるタイピング指標の明確化は定着。
③ 教科等の教育活動や特別活動におけるICTの活用場面の促進	③ ○GIGAミニ研修の実施は適切に実施され、タブレットの活用も日常化してきている。 ○委員会やクラブでも活用され、環境整備も推進。
④ 個別最適化と協働学習を意識した授業の実施	④ ○ミライシード（授業支援）の日常利用による個別習熟の推進と見取りはダッシュボードで確認が進む。 △研究授業における個々の学習の深化と見取りは深まったが、さらなる教員の指導力向上が必要。 △校内研究の学び合いで、効果的なグループ学習への知見は深まったが、プロジェクト型学習はもう一歩。

※ ベーシックドリルや習得目標問題を「まんてんぐタイム」などに例年通り取り組むことができた。市学力調査の分析を夏季休業中に行い、夏季休業中の補修学習における中学生の指導補助やミライシード、ベーシックドリルの分析などを活用することができた。

また、2年継続した同学年を担当する教員の学年配置により、指導計画の見直しや学習指導の充実を図ることができた。

小中一貫教育の充実は、児童・生徒の交流活動に止まらず、両校の学校運営協議会もキャリア教育のよりよい取組のために熟議を重ね、様々な提案をいただくことができた。

2 系統性や環境等を考慮した特色ある郷土学習の実践

具体的方策	評価
<p>① 郷土愛を育む「郷土学習」の計画的な実施</p> <p>② 長田養蚕、機織り伝承会など、地域の方との連携を取り入れた、人とつながる教育活動</p>	<p>① ② ○高尾山を教材とした体験学習や調べ学習を全校で系統的に実施することができた。昨年度に引き続き、次年度、5年生のSDGsに関わる活動場所の検討が必要である。</p> <p>① ② ○機織り伝承会、八王子の語り部、長田養蚕やエコ広場、栗山保存会、社協、保幼小連携、拓殖大学、学校運営協議会、地域の方々など、多大なご協力をいただき活動が充実した。</p>
<p>※次年度から八王子市で充実を図るキャリア教育に合わせて、各学年「郷土（地域）学習」の充実と学校運営協議会、学校支援コーディネーターを窓口とする地域人材や関係機関と連携し、さらなる活動充実を図る必要がある（活動は令和7年度3月学校だより参照、合同学校運営委員会の開催など）。</p>	

3 児童の恒常的な人間関係の醸成

具体的方策	評価
<p>① 人権教育の充実のため、道徳教育・いじめ対策・教育相談活動・特別支援教育の充実</p>	<p>① ○人権教育・道徳の指導計画に沿った学年全体での取組の計画的運営ができた。</p> <p>○生活指導夕会や各学級活動等を活かして情報共有や支持的な学級風土をつくらうとしている。</p> <p>○組織的な対応でいじめ重大事態が起きないように努めている。弁護士による研修等も含め、より丁寧で明確な対応を心がけた。</p> <p>○アンケートを年3回実施し、QUを活用した。また、SCや学年団での児童の共通理解を深めている。</p> <p>○外部講師や外部組織を活用し、教育相談・特別支援教育の充実を図り、不登校傾向にある児童や不安を抱えている児童の対応として担任・専科・養護・特別支援教室の教員やSCやSSWと連携して組織的</p>

<p>② 自己実現・人間関係形成・社会参画を核とした特別活動の充実</p>	<p>に取り組んだ。教科担任制による、学年団の強みも活かすことができた。</p> <p>② ○縦割り班活動及び委員会、クラブ活動など特活主任を中心に推進し、教員の自己申告でも学級会の取り組みを確認し、充実を図ることができた。</p>
<p>※ 道徳授業地区公開講座などで認知症の知見を深めたり、立場ごとにある多様な考え方を学んだりしているが、さらに充実を図っていきたい。学習と関連した学び合いによって、よりよく関りながらお互いの理解を深めるような活動の充実を次年度も積み重ねていきたい。</p>	

4 地域・家庭との連携（信頼される学校づくり）

具体的方策	評価
<p>① 学校だよりを始めとした諸連絡のHome&Schoolの活用</p>	<p>① ○Home&Schoolで不審者情報など、いち早く正確な配信を行うことができた。</p> <p>△Home&School自体のネットワーク不調で、思うように連絡ができないことがあった。別の通信手段の検討し、電話など対応策を考える必要がある。</p>
<p>② 保護者会・学校公開・アンケート等のオンライン化の実施</p>	<p>② ○今年も保護者会で動画ファイルでの対応を行った。YouTubeを活用することはなかったが、動画ファイルはAIの説明を編集して見せるなど、動画の良さを活用することができた。</p> <p>△昨年同様、評価の集計や転記も簡略化できたが、学校評価の提出率の低下が続いている。</p>
<p>③ ゲストティーチャーや授業サポートの協力の依頼</p>	<p>③ ④ ○特にPTA本部の協力により、運動会や学芸会の教育活動の充実が図られた。学年PTAの積極的な活動により、各学年で行う安全教育や日本遺産学習も充実した。学校コーディネーターが学校運営協議会の方でもあるので、つながりも深くなっている。</p>
<p>④ 学校運営協議会、PTAをはじめ、各組織と連携した学校運営</p>	<p>④ ○学校運営協議会、PTA本部の体制や人材が整っており、学校運営の充実が図られている。</p>
<p>その他の地域に根差した連携</p> <p>○あいさつ運動を青少対と協力して実施し、校内でも児童が率先してあいさつ週間として取り組んだ。</p> <p>△危険箇所マップを活用した通学路点検 夏季休業中に確認等を行う必要がある。</p> <p>○通学路の見回り（安全ボランティアの方の確認、外部評価） 月1回程度実施できた。</p> <p>○PTA、町会行事への参画及び参加、浅川スポーツクラブとの連携は適宜実施できた。</p>	

5 SDG s の視点を取り入れた教育活動の充実

具体的方策	評価
① ユネスコスクールへの正式登録と取組の深化	<p>① ○ユネスコスクールの正式登録ができた。 △校長が担当となり活動報告書や補助申請等を行っているが、担当を決めて恒常化できるようにしたい。 ○ユネスコスクールの要件に照らして、SDG s に積極的に取り組む意識が醸成されている。</p>
② 給食・保健・衛生指導の充実	<p>② ○食育や保健指導の充実を例年通り実施し、SDG s 育の一端を担った。 △保健・衛生指導は適切に行われたが、次年度の体制を整えて、薬物乱用防止だけでなく、保健体育の指導の充実も図りたい。</p>
③ 地域学習や環境改善事業から考える授業	<p>③ △八王子未来デザイン 2040 に基づく LED 化、水道の自動水栓は教材となった。太陽光施設は設置されないことになり、目に見える代替となるものを考えたい。</p>